

民主化闘争情報

No. 927
2015年4月9日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

青函トンネル内で発煙事故が発生するなど安全確立と信頼回復が急務のJR北海道。最大労組、JR総連・JR北海道労組の鎌田委員長は本年2月の定期中央委員会で「組合提言『列車の間引き・速度ダウン』は功を奏し、重大事故の連鎖を断ち切ることができました。大きな成果だと思えます」と挨拶を行った模様であるが、皮肉にもその矢先、大きなトラブルが発生した形だ。

さらに「労働組合は健全であれば社内環境改善に寄与するが、JR北海道の労組の一部では問題が指摘されている（和田政宗参議院議員）」などと国会で非難されたJR北海道労組。組合員からは、組織運営等に対して「不満」「嘆き」「呆れ」などの声が噴出している。

これがJR総連・JR北海道労組の実態！？(vol.6) 組合員の本音を把握しきれない執行部！？ 組合員からは「不満」「嘆き」「呆れ」の声！

JR総連・JR北海道労組の独善的で強制的とも言える組織運営に対する、所属組合員からの悲痛な叫びを紹介する。

- ・「他組合の社員と口をきいただけで職場の組合役員に注意される」とあきれ。（JR北海道労組）組合執行部は、組合員の本音を把握しきれしていない。（日経BP社）
- ・（組合を批判すれば）「殺す」、「職場にいられなくしてやる」、「職場にこられなくしてやるぞ」、「居場所をなくしてやるぞ」などと威圧され、職場に出てきたら待ち構えて無視する。（テレビ朝日）
- ・正直、異常な組織だと入社時から感じています。政治問題が一番で、労働条件の改善は二の次です。（UHB北海道文化放送）
- ・「後援会にまず入れ」「カンパしろ」半ば強制的に・・・僕も無理やり払わされた。（北海道テレビ放送）

組合活動は本来、お互いの立場を尊重し合い、自由で民主的に行うものである。

本人の意思を尊重することなく独善的、強制的、脅迫的に行われているとしたら、正当な組合活動のはずがない。上述以外にも「（革マル派幹部の元JR東労組委員長関連の）本も強制的に買わされる」など不満が噴出している模様である。

**JR総連・JR北海道労組の組織運営に疑問を抱いている皆さん
安心できる職場の構築にむけて、JR連合・JR北労組に結集しよう！**